

令和5年度コロナ禍における市民の皆様の健康状態 に関する調査報告書 - 大阪府八尾市 -

I. はじめに

新型コロナウイルス感染症（コロナ）の流行は、市民の皆様の日常生活や健康に少なからず影響を及ぼしてきました。また、コロナ感染により症状が長引いたり、合併症を併発する可能性が指摘されていますが、その長期的な実態は不明な点が多くあります。

そこで国立国際医療研究センターでは、八尾市保健所と共同で令和4年度にコロナ禍における住民の皆様の心身の健康状態や社会的状況、コロナに感染した方の回復状況などについてアンケート調査を行いました。令和5年度はその追跡調査として、長期的な健康状態や生活への影響に関する調査を行いました。本調査の結果が、皆様の健康や暮らしの実態をお示しし、今後の対策を考える上でお役に立てることを願っております。

今回の主な調査結果は以下の通りです。

- 1) 新型コロナウイルスに感染した方のうち、感染後3か月の時点*で成人では約13%、小児では約6%の方に罹患後症状がみられ、非感染者の2か月以上続く似たような症状の約2～3倍多い結果でした。
- 2) 感染から1年半時点でも罹患後症状が続いている方は成人では約5%、小児では1%でした。長く続いている症状で多い症状は、成人では睡眠障害、集中力低下、倦怠感・疲労感、小児では疲労感・倦怠感、咳嗽、ブレインフォグでした。
- 3) 長期的に罹患後症状が続いている人では、生活や経済状況に影響がある傾向が示されました。

*本研究では、感染者の罹患後症状（遷延した症状）をWorld Health Organization（WHO）の定義を参考に「2か月以上持続し、かつ初回感染から3か月時点で有していた症状」とし、非感染者では、「2022年12月から回答時点までの間で2か月以上続いた症状」とした。

II. 調査概要

調査対象

八尾市在住者で令和3年3月～令和4年4月に新型コロナウイルス感染症にかかれた市民の方々、および非感染者の市民の方々。

調査期間

令和6年1月～2月

調査方法

令和4年度の調査回答者に、本調査に関するご案内を郵送し、研究への継続した参加の同意が得られた方々に対する、紙面またはインターネットによる調査を実施いたしました。

調査主体

本調査は、八尾市保健所の協力のもと国立国際医療研究センターが実施いたしました。

財源

本調査は、厚生労働科学研究費補助金新興・再興感染症及び予防接種政策推進研究事業（JPMH23HA2011）を受けて実施いたしました。



回答者

成人と小児における回答率をお示しします。成人では全体の回答率は65.1%、小児では69.2%でした。

成人（19歳～70歳）の調査

	送付者	回答者	回答率(%)
男性	2,820人	1,777人	63.0
女性	4,584人	3,020人	65.9
合計	7,404人	4,820人*	65.1

*性別不明者23名を含む



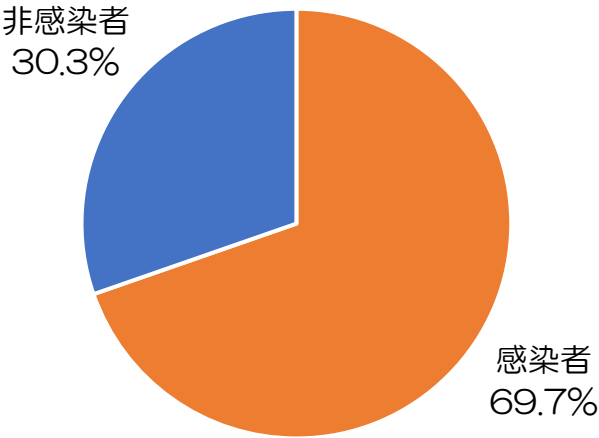
小児（6歳～18歳）の調査

	送付者	回答者	回答率(%)
男性	1,870人	1,287人	68.8
女性	1,567人	1,091人	69.6
合計	3,439人*	2,378人	69.1

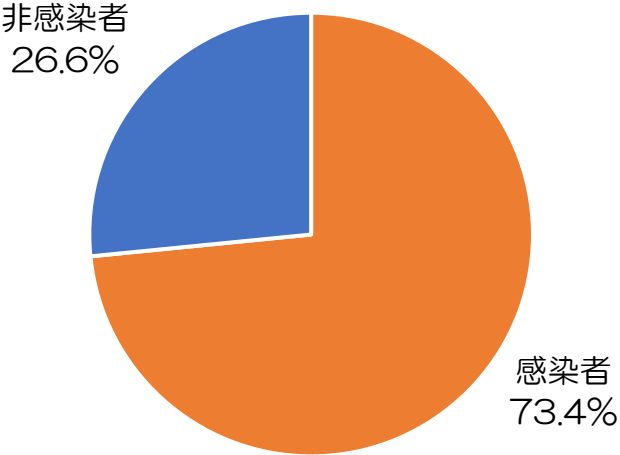
*年齢不明者2名を含む

感染の有無

成人



小児



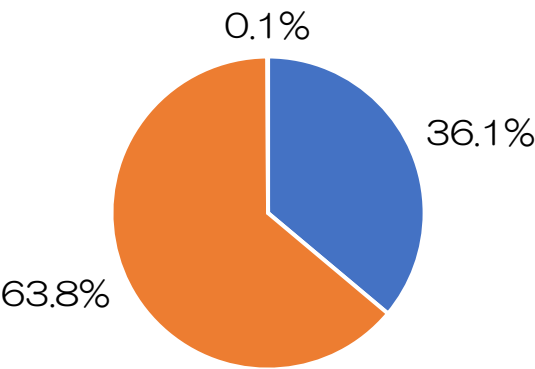
成人、小児の調査ともに、約70%の方が感染者でした。

調査回答の概要（成人の調査）

1. 性別

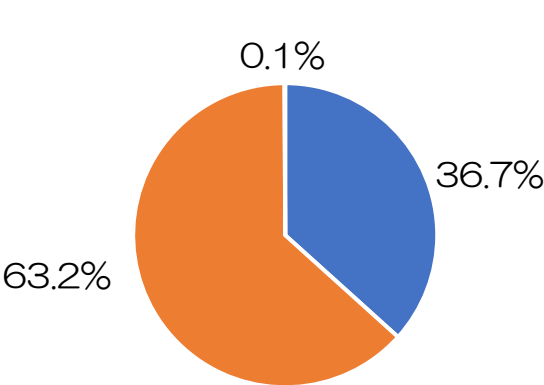
感染者、非感染者ともに、女性が約60%を占めました。

感染者 3,019人



- 男性
- 女性
- その他・答えたくない

非感染者 1,314人

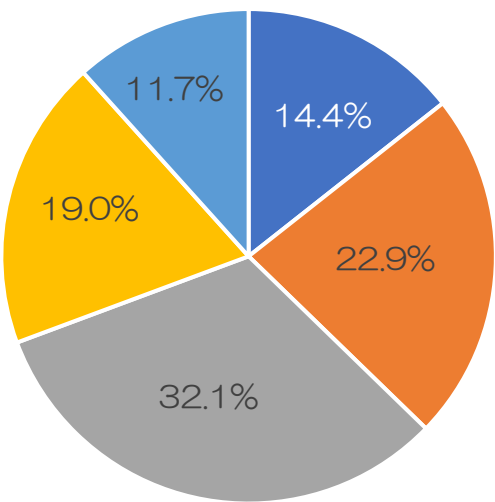


- 男性
- 女性
- その他・答えたくない

2. 年齢

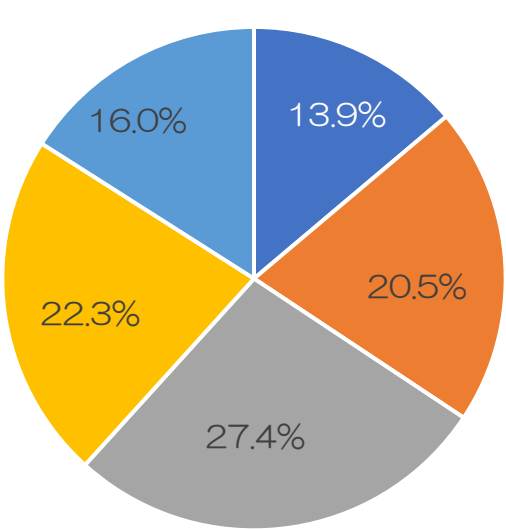
感染者・非感染者ともに、年齢層の分布はほぼ同じでした。年代別では、40歳代が最も多かったです。

感染者 3,019人

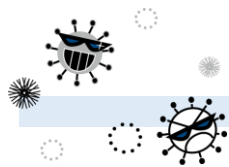


- 19-29歳
- 30-39歳
- 40-49歳
- 50-59歳
- 60-70歳

非感染者 1,314人



- 19-29歳
- 30-39歳
- 40-49歳
- 50-59歳
- 60-70歳

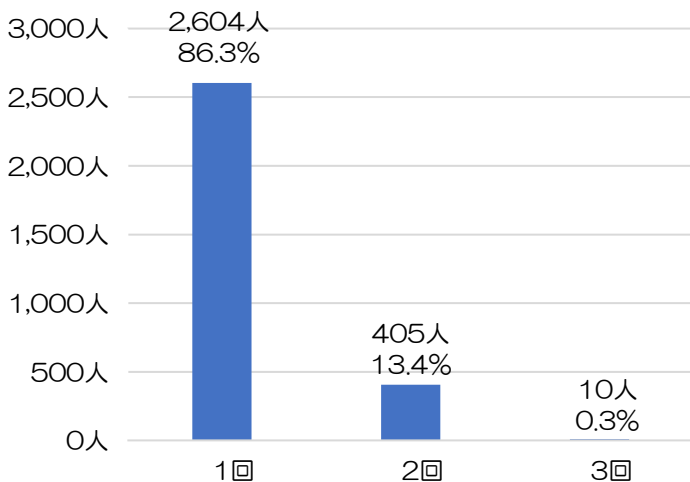


新型コロナウイルス感染状況

1. 感染回数

感染者のうち、感染回数が1回の方が約86%と大多数でした。

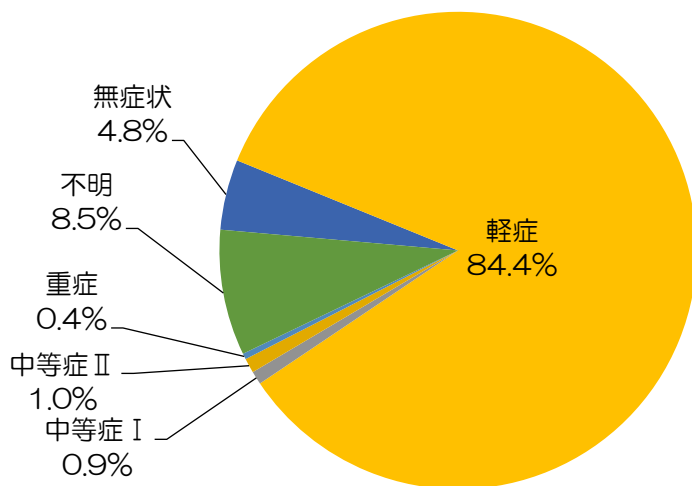
感染者3,019人



2. 感染時の重症度

感染時の症状は約84%が軽症で、中等症や重症の方は少数でした。

感染者 3,019人



<本研究における重症度の定義>

軽症 : 呼吸器症状なし（または呼吸困難なし）。

中等症Ⅰ : 呼吸困難・肺炎所見あり。

中等症Ⅱ : 酸素投与必要。

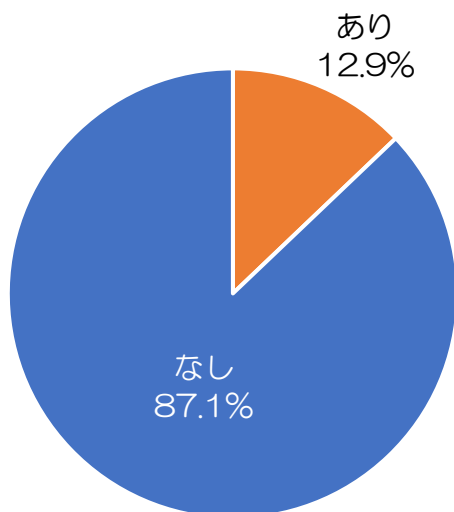
重症 : 集中治療室における治療または人工呼吸器が必要。

(新型コロナウイルス感染症診療の手引き第10.1版より)

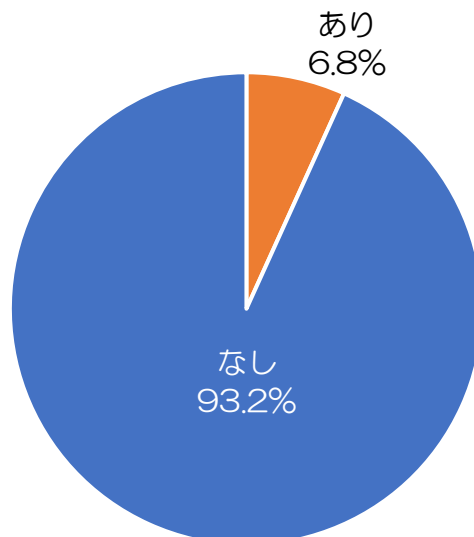
3. 感染後の長引く症状（罹患後症状）

感染者のうち、感染後に出現し、少なくとも2か月以上続き、感染から3か月経った時点でもみられる症状があった方は389人で感染者の方の12.9%でした。

感染者3,019人



非感染者1,314人



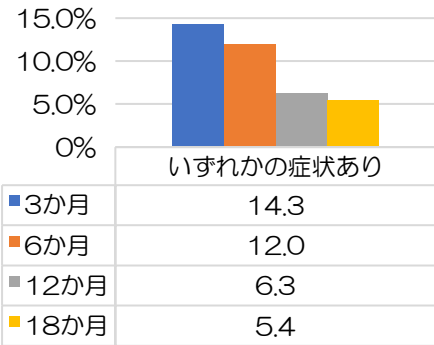
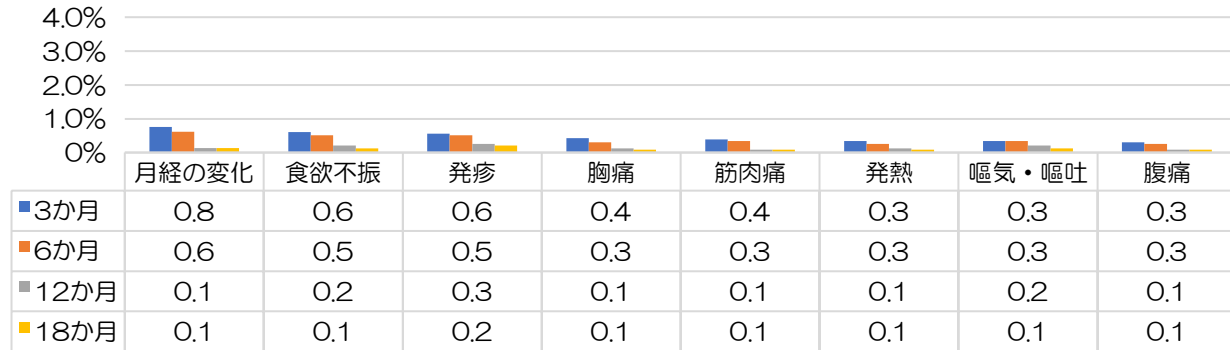
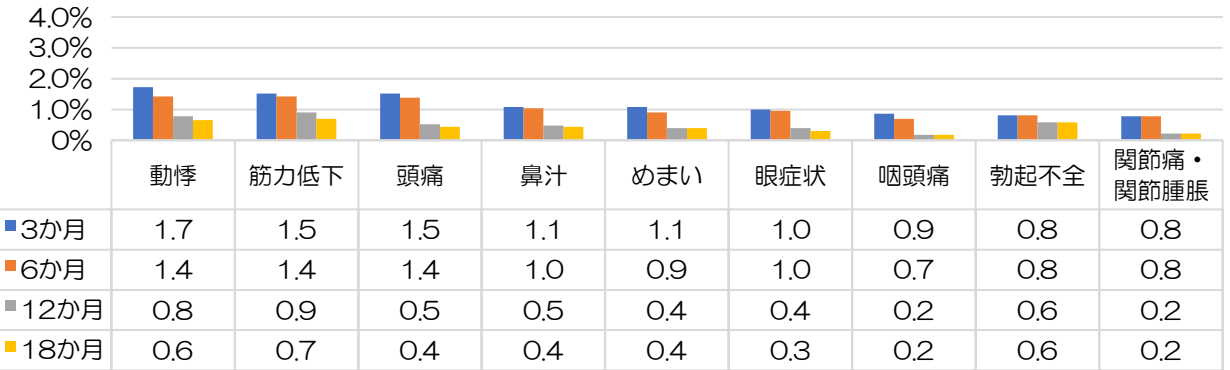
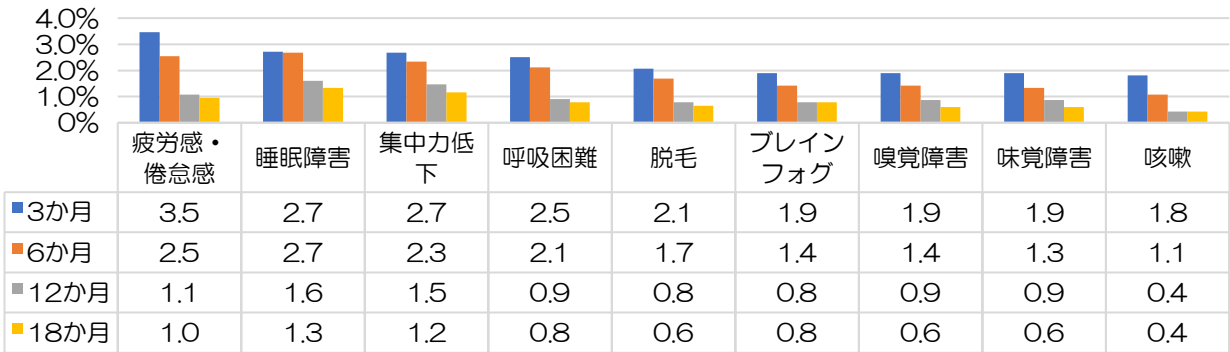
4. 感染から18か月以上経過された方（2,314人）における罹患後症状の経過

感染者3,019人のうち、初回感染から18か月以上追跡した2,314人における罹患後症状についてお示ししています。

感染3か月後まで持続した症状で多く見られた症状は、疲労感・倦怠感、睡眠障害、集中力低下、呼吸困難、脱毛、ブレインフォグでした。

いずれか1つ以上の罹患後症状を有していた方は、感染3か月後時点では14.3%でしたが、時間とともにこの割合は低下し、18か月（1年半）後も持続している方は5.4%でした。

■3か月 ■6か月 ■12か月 ■18か月



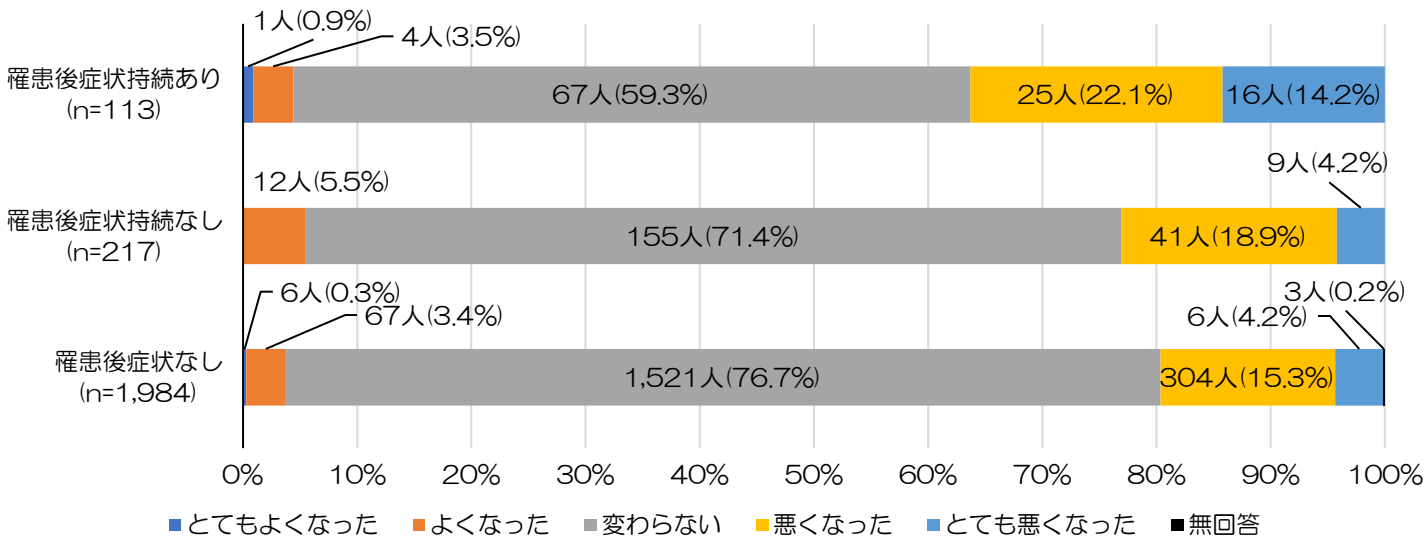
- 睡眠障害
- ：なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。
- 目の症状
- ：目の痛み、かゆみ、異物感、充血、涙目、目やに、かすみ目、見えづらさといった症状。
- ブレインフォグ
- ：脳に霞がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」「混乱している」「新しくものを覚えることが難しい」「優柔不断」「しっかり考えられない」などの状態。
- 嗅覚障害
- ：においの感じ方が以前と比べておかしい。
- 味覚障害
- ：味の感じ方が以前と比べておかしい。

1. 主観的経済状況への影響

調査時点（感染から18か月以上経過）で罹患後症状が持続している方々（113人）、罹患後症状が持続していない方々（217人）、罹患後症状なし（1,984人）の方々における感染前と比較した主観的経済状況をお示ししています。罹患後症状が持続している方々のうち、約60%の方々は主観的経済状況は変わらないと回答されていました。よくなった、とてもよくなったと回答された方々は合わせても5%未満だったのに対し、悪くなった、もしくはとても悪くなったと回答された方は計30%を超えていました。

罹患後症状が持続していない方々と罹患後症状がない方々の70%以上は、主観的経済状況が変わらないと回答されていました。一方で、約15～20%の方々は悪くなったと回答されていました。ただし、コロナ渦における主観的経済状況の変化は、罹患後症状の持続以外にもその他の様々な要因が関与している可能性があるため、解釈には留意が必要です。

罹患後症状の持続と主観的経済状況の変化





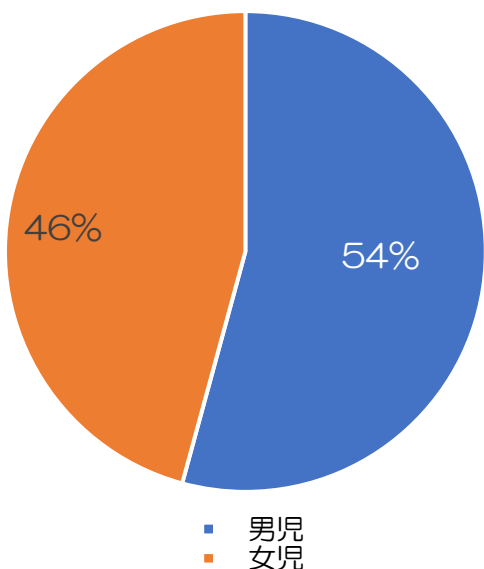
調査回答の概要（小児の調査）



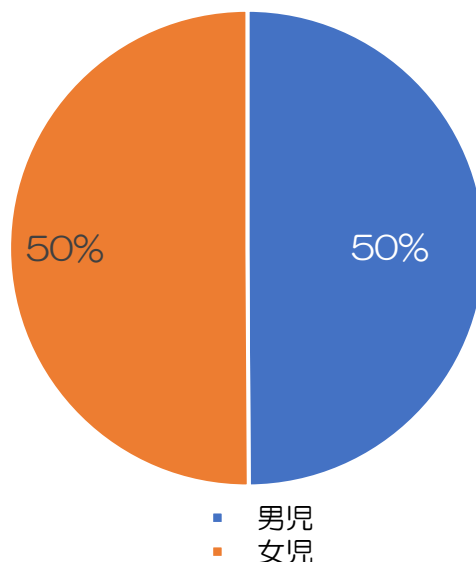
1. 性別

対象児の性別は感染者、非感染者ともに約50%が男児でした。

感染者 1,534人



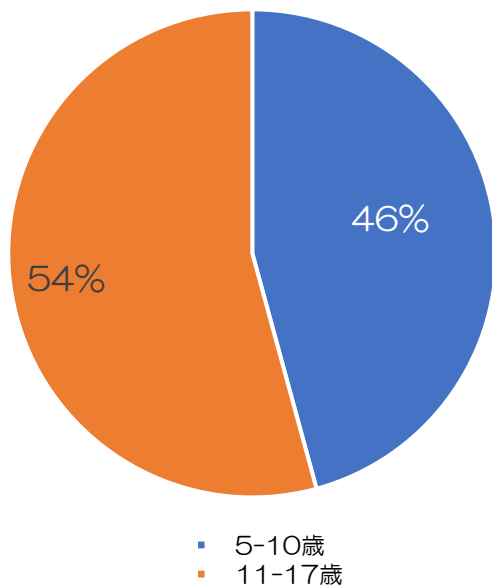
非感染者 555人



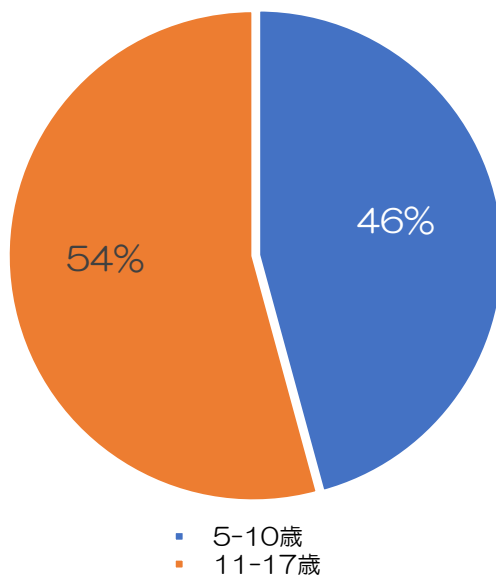
2. 年齢

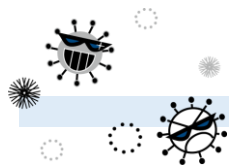
対象児の年齢は感染者、非感染者ともに5-10歳の割合は46%、11-17歳の割合は54%でした。

感染者 1,534人



非感染者 555人

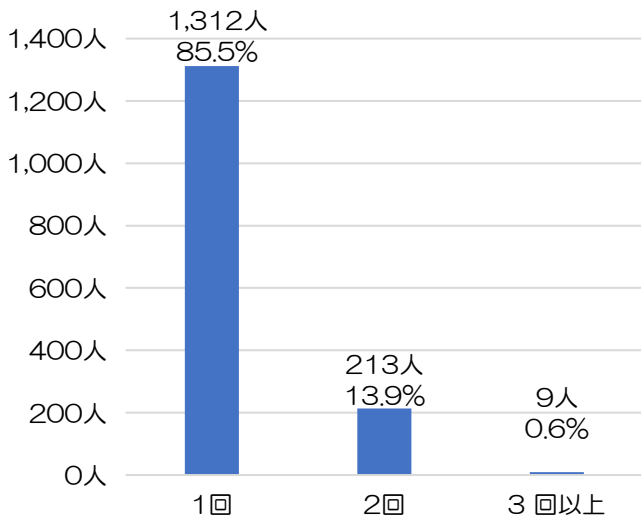




1. 感染回数

感染者のうち、感染回数が1回の方が約86%と大多数でした。

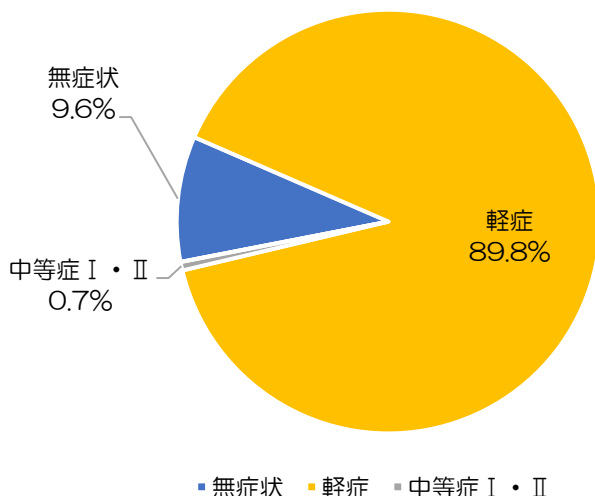
感染者 1,534人



2. 感染時の重症度

感染時の症状は約90%が軽症で、中等症や重症の方は少数でした。

感染者 1,534人



<本研究における重症度の定義>

軽症：呼吸器症状なし（または呼吸困難なし）。

中等症Ⅰ：呼吸困難・肺炎所見あり。

中等症Ⅱ：酸素投与必要。

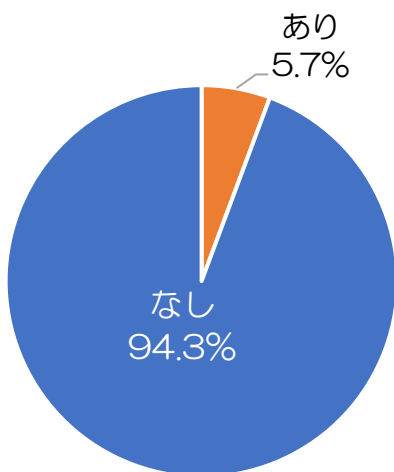
重症：集中治療室における治療または人工呼吸器が必要。

（新型コロナウイルス感染症診療の手引き第10.1版より）

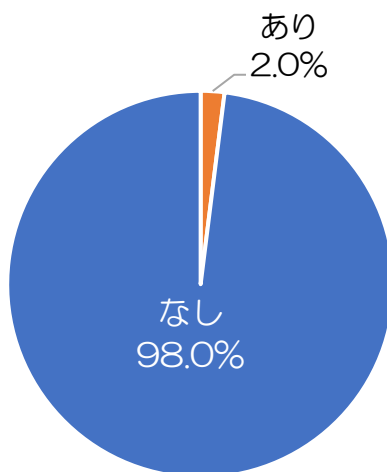
3. 感染後の長引く症状（罹患後症状）

感染者のうち、感染後に出現し、少なくとも2か月以上続き、感染から3か月経った時点でもみられる症状があった方は87人で感染者の方の約6%でした。

感染者 1,534人



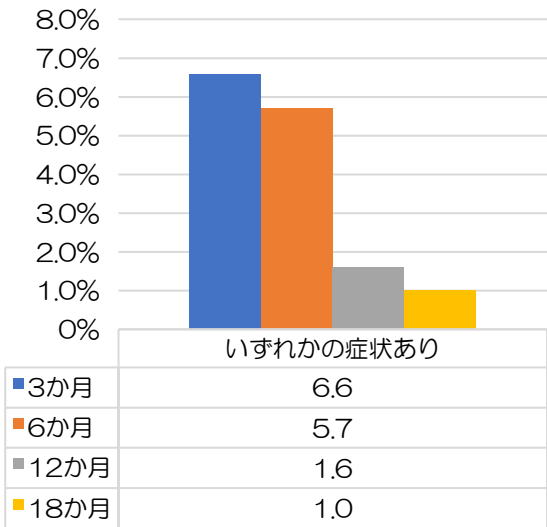
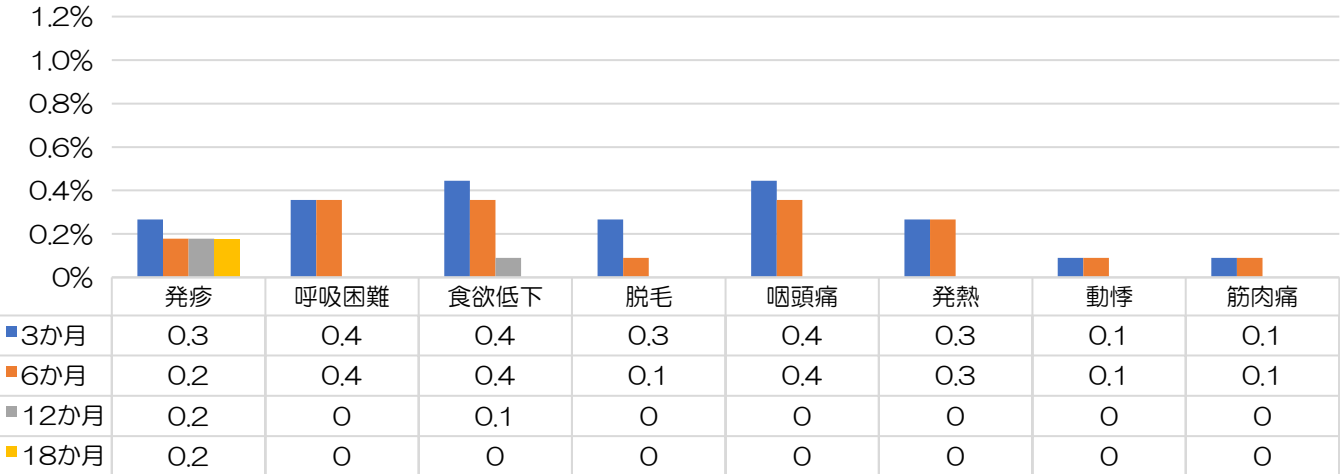
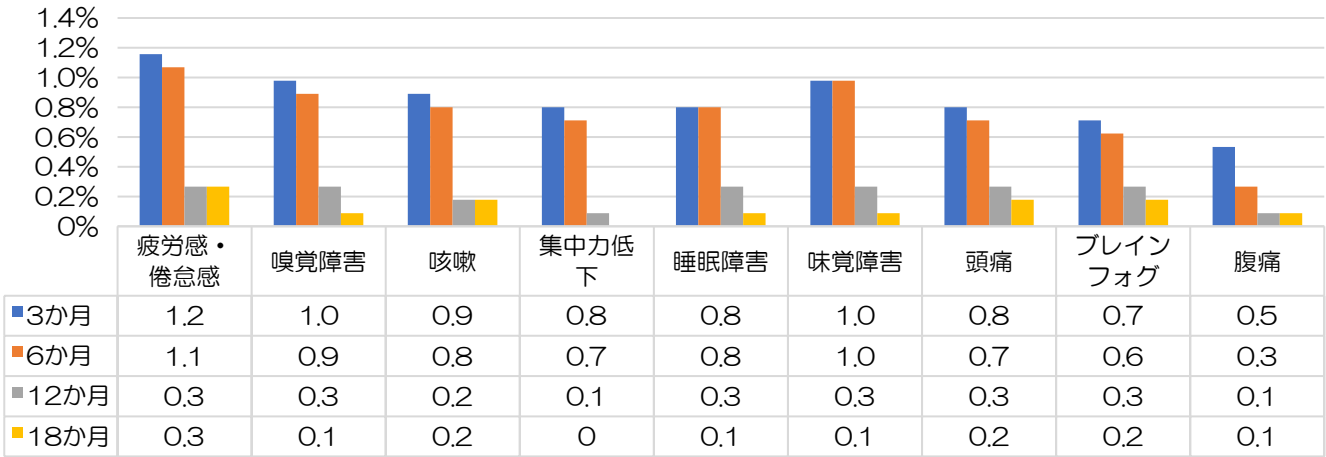
非感染者 555人



4. 感染から18か月以上経過されたお子さんにおける罹患後症状の経過

感染されたお子さんにおいて、何らかの罹患後症状を有していた方は、感染3か月後時点では6.6%でしたが、時間とともにこの割合は低下し、18か月（1年半）後も持続している方は1.0%でした。長く持続した症状で多く見られた症状は、疲労感・倦怠感、咳嗽、頭痛、ブレインフォグでした。

■3か月 ■6か月 ■12か月 ■18か月



睡眠障害：なかなか寝つけない、夜間や早朝に目が覚める。
目の症状：目の痛み、かゆみ、異物感、充血、涙目、目やに、かすみ目、見えづらさといった症状。
ブレインフォグ：脳に霞がかかったような状態のことで「ぼんやりしている」「混乱している」新しくものを覚えることが難しい」「優柔不断」「しっかり考えられない」などの状態。
嗅覚障害：においの感じ方が以前と比べておかしい。
味覚障害：味の感じ方が以前と比べておかしい。

1. 罹患後症状の持続と現在の生活への支障度

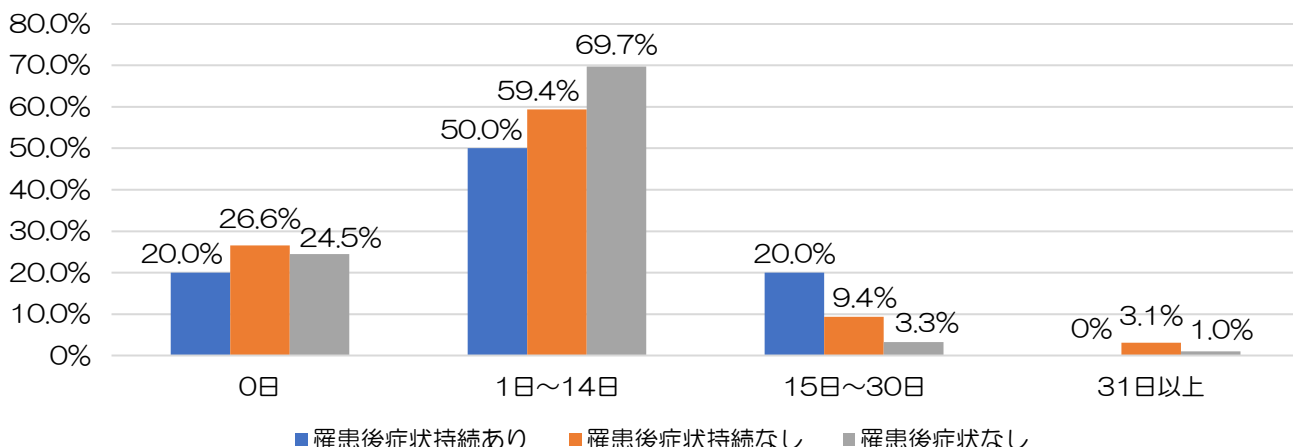
調査時点（感染から18か月以上経過）でも症状が持続しているお子さん10人のうち、現在も生活上に中等度以上の支障をきたしていると回答された方が半数おられました。

2. 罹患後症状と就学状況の変化

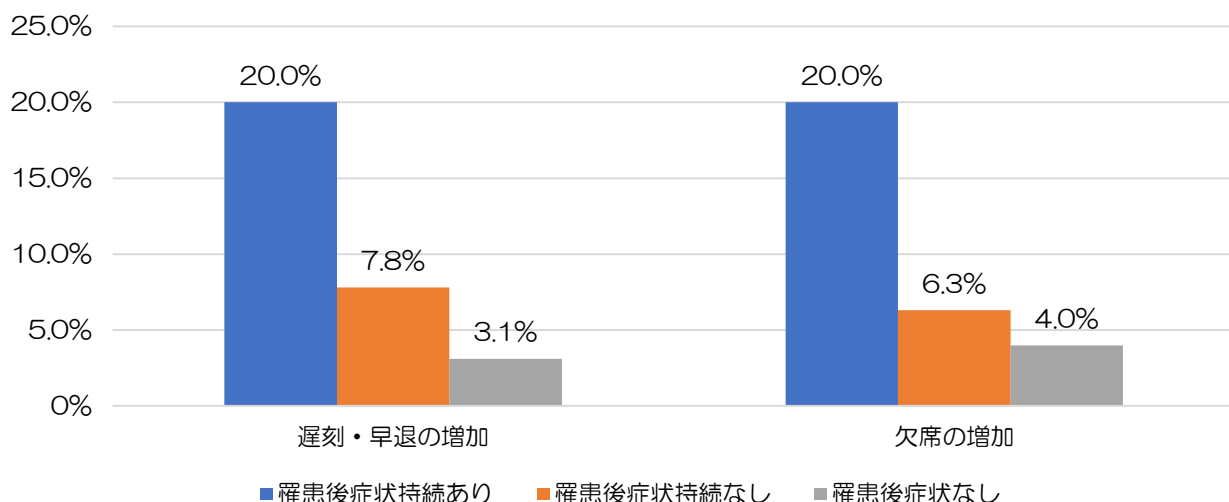
感染から18か月以上経過されたお子さん1,124人のうち、罹患後症状が持続していた方では、過去1年間で15日～30日の欠席をされたお子さんが20.0%と、罹患後症状がないお子さん（3.3%）や罹患後症状の持続がないお子さん（9.4%）と比べて高くなっていました。

また、罹患後症状が持続していたお子さんは、罹患後症状がないお子さんよりも遅刻・早退や欠席が多くなる傾向が見られた。

過去1年間の欠席日数



感染前と比べた就学の変化



コロナ禍における住民の皆様の健康状態に関する調査報告書 - 大阪府八尾市 -

発行・編集：国立国際医療研究センター国際医療協力局

グローバルヘルス政策研究センター

令和7年3月